

政策コメンテーター報告(第1回)【意見照会期間:2016年2月12日～2月22日】: 中空 麻奈 BNPパリバ証券株式会社投資調査本部長

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1	<p>2016年2月上旬から2月下旬にかけての経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(2015年11月上旬から11月下旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。なお、政府の景気認識については月例経済報告の中でお示ししているのをご参照ください。</p>	悪くなっている	<p>GDPがマイナスとなり、消費が冴えないことが明らかになった。リスクオフモードが目立った結果、各金融市場も安定しない。心理的なネガティブプレッシャーも大きくなった。マイナス金利の影響が出るのはこれからであろうが、金融機関の収益力の低下についてはより厳格に見ておく必要も出てきた。米国金利状況、原油価格および資源価格の低下、中国景況感の不透明性など相変わらず世界を見回しても調子が悪い。リーマンショックのほど、レバレッジがかかっていないことが救いたが、世界の状況とともにリスク要素が目立つようになっていることは明らかだ。</p>
2016年前半に取り組むべき課題			
2	<p>2016年前半において、記載した3つの課題に関し、特に強化・加速すべきとお考えになる取組について、具体的な推進方法や手法がありましたらご紹介下さい。</p> <p>また、これら3つには含まれないが、同様に重要だとお考えの課題がございましたら、その推進方法とあわせて具体的にご記載下さい。</p>	-	<p>景況感の停滞が見られていること、株価の低迷も見られること、世界の状況もままならない中、消費増税再利上げの先送りが検討される可能性が出てきたのではないかと危惧している。現時点では2017年4月からの導入が決まっているものながら、マーケットでは株式市場を中心に消費増税先送りへの期待感が高まっている。しかし、消費増税先送りの選択は短期的には良くて、中期的には二つの問題があることに気を付けたい。第一に消費増税の駆け込み需要がなくなり景況感の落ち込みが避けられないこと、第二に国債の格下げが実行される可能性が大きいこと。仮に現行から二ノッチ格下げされれば、短期格付けは最上格を失う。邦銀や事業会社の資金調達コストを引き上げ、競争力の低下につながりかねず懸念される。経済・財政再生計画の着実な推進もままならない。さらに、もう一つ加えるなら、現状の閉塞感是世界中の過度な金融政策への依存から抜け出せないことに起因している。しかし、この状況から抜け出すには、規制緩和や構造改革が文字通り進むしかない。TPPなどを更に推進していけるか、こうした実行力も試される正念場を迎える。</p>